



キンギョの卵の観察は、どうすればいいの

春から夏にかけての早朝が多い

キンギョが卵をよく産むのは、水温が20前後になる4～6月ごろです。産卵する時刻は、夜明けごろから午前中までが多いものです。卵を産む時期になると、オスがさかんに、おなかの大きいメスを追いかけはじめます。メスに体をすりつけ、腹の部分をつついたりします。このころになったら、産卵のための水草のたばを用意し、水面にうかばせておきます。やがて、メスは、水面近くの水草のそばで、産卵します。

なかなか産卵しないときは、水そうの水を取りかえてやると、そのしげきで産卵することがあります。水は、くみ置いたものか、中和剤（ハイポ）で中和した水道水を使います。

卵は4～5日でふ化する

ものにくっつくキンギョの卵は、水そうのかべや底にもついてしまうので、水草に産ませて取り出し、別の水そうに移します。そうしないと、キンギョが卵を食べてしまうことがあるからです。日あたりのよい所に置いておくと、卵は4～5日でふ化します。子魚が泳ぎはじめたら、えさに、ミジンコやゆで卵の黄身などをあたえましょう。

キンギョの種類によってちがってきますが、1回に産む卵は、500～5000個ぐらいで、4月～8月までの産卵期に、3～4回産卵します。（監修・安部 義孝）

